

令和元年度

事業報告

(令和元年7月1日～令和2年6月30日)

特定非営利活動法人

日本国際湿地保全連合



1. 調査・研究事業

1.1 重要生態系監視地域モニタリング推進事業（モニタリングサイト 1000）磯・干潟調査

- 磯・干潟生態系に設置された 14 か所（磯 6 か所、干潟 8 か所）の調査サイトにおける生物調査の実施を研究者へ依頼し、調査が実施できるよう各関係機関との調整を行った。
- 事業で得られた調査データについて、論理的・生物学的チェックを行い、解析等に使用しやすいフォーマットのデータベースファイルに変換した。また、調査データを取りまとめた調査報告書を作成した（生物多様性センターの Web サイトにて公開）。
- 磯分科会及び干潟分科会を開催し、調査の継続に関する取り組みや調査時の安全管理に関する内容について検討した。
- 事業開始から 10 年間の干潟調査で得られた成果等を国際学会（The Fourth Asian Marine Biology Symposium: AMBS, Nov. 2019, Taiwan）で紹介した。
- 平成 31 年度に引き続き、令和 2 年度も業務を受注した。

1.2 重要生態系監視地域モニタリング推進事業（モニタリングサイト 1000）アマモ場・藻場調査

- アマモ場・藻場生態系に設置された 12 か所（アマモ場 6 か所、藻場 6 か所）の調査サイトにおける生物調査の実施を研究者へ依頼し、調査が実施できるよう各関係機関との調整を行った。
- 事業で得られた調査データについて、論理的・生物学的チェックを行い、解析等に使用しやすいフォーマットのデータベースファイルに変換した。また、調査データを取りまとめた調査報告書を作成した（生物多様性センターの Web サイトにて公開）。
- アマモ場分科会及び藻場分科会を開催し、調査の継続に関する取り組みや調査時の安全管理に関する内容について検討した。
- 事業開始から 10 年間の藻場調査の結果をまとめた学术论文を関係者と発表した。

[Ryuta Terada, Mahiko Abe, Takuzo Abe, Masakazu Aoki, Akihiro Dazai, Hikaru Endo, Mitsunobu Kamiya, Hiroshi Kawai, Akira Kurashima, Taizo Motomura, Noboru Murase, Yoshihiko Sakanishi, Hiromori Shimabukuro, Jiro Tanaka, Goro Yoshida, and Misuzu Aoki, Japan's nationwide long-term monitoring survey of seaweed communities known as the "Monitoring Sites 1000": Ten-year overview and future perspectives, Phycological Research, 2019 年 7 月, 日本]

- 平成 31 年度に引き続き、令和 2 年度も業務を受注した。

1.3 重要生態系監視地域モニタリング推進事業（モニタリングサイト 1000）陸水域調査

- 湖沼生態系では、水生植物調査で 3 か所、淡水魚類調査で 2 か所の新規調査サイトを設置し、調査を実施した。
- 湿原生態系では、1 か所の新規調査サイトを設置し、新規サイトを含む 4 サイトで植生調査を実施した。また、全 10 サイトで物理環境データの回収、機器の交換を行った。
- 水生植物調査合同ヒアリングを実施し、水生植物分科会委員およびサイト代表者間で調査手法の改良点について意見交換する場を設けた。
- 淡水魚類分科会、水生植物分科会、湿原分科会を開催し、今後の事業実施方針や調査結果のまとめ方に関する内容等について検討した。

- 事業開始から10年間の調査で得られた成果等を取りまとめ報告書にまとめた。
- 平成31年度に引き続き、令和2年度も業務を受注した。

1.4 効果的な湿地モニタリング手法の開発

- 環境研究総合推進費（平成29年度～平成31年度）「湿地の多面的価値評価軸の開発と広域評価に向けた情報基盤形成」のサブテーマ4「効果的な湿地モニタリング手法の開発」において、インターネットを活用した湿地情報共有システムを構築した。
- 本研究課題に関する成果の情報発信、および湿地の生物多様性モニタリング促進のためのツール公開を行うために構築したウェブプラットフォームの管理とコンテンツの追加公開を行った。
Wetlands Information <http://wetlands.info/>
- 文献に基づき収集した全国の湿地及び植生の情報を統合した全国湿地データベース（Wetlands Database in Japan）のデータ公開作業を担当した。（サブグループ3が作成）
<http://wetlands.info/tools/wetlandsdb/wetlandsdb/>
 - ✓ 文献データベース（2020年3月公開）
表示数：2、ダウンロード数：32（2020年8月4日時点）
 - ✓ 湿地データベース（2020年3月公開）
表示数：3、ダウンロード数：38（2020年8月4日時点）
 - ✓ GISデータ（2020年3月公開）
表示数：2、ダウンロード数：24（2020年8月4日時点）
- 市民参加型の水生植物調査のガイドラインを公開した。（サブグループ4が作成）
<http://wetlands.info/tools/guidebook/guideline4survey/>
 - ✓ 水生植物相調査のガイドライン（第1版）（2020年3月公開）
表示数：3、ダウンロード数：52（2020年8月4日時点）
- その他、以下のコンテンツが公開中である。
 - ✓ 水生植物同定用ガイドブック概要版「さがそう！日本の水草44種」（2018年7月公開）
表示数：2820、ダウンロード数：1665（2020年8月4日時点）
 - ✓ 水生植物同定用ガイドブック「水草ハンドブック」（2018年8月公開）
表示数：8489、ダウンロード数：9527（2020年8月4日時点）
 - ✓ 救荒植物データベース（2019年3月公開）
表示数：1057、ダウンロード数：82（2020年8月4日時点）
 - ✓ 日本産水生・湿生植物チェックリスト（2019年3月公開）
表示数：1847、ダウンロード数：526（2020年8月4日時点）
 - ✓ 維管束植物和名変換シート（2019年3月公開）
表示数：554、ダウンロード数：191（2020年8月4日時点）

1.5 令和元年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査に関する見直し検討業務

- 令和3年度に東北地方太平洋沖地震の発生から10年目の区切りを迎えるため、復旧工事などが完了した後の沿岸域の自然環境の状況を把握するためのモニタリングの必要性について検討した。
- 有識者へのヒアリングの実施にあたっては、地震後に実施された生態系監視調査の結果や現

地の情報を取りまとめた資料を作成し、干潟、アマモ場、藻場の6名の専門家からモニタリングを継続することが望ましい調査地やその理由等の意見を収集した。

- 生態系監視調査の結果やヒアリング結果を取りまとめ、令和3年度以降、モニタリングを実施することが望ましい調査地を絞り込んだ。また、専門家のヒアリング結果を参考に、モニタリングを実施する場合の調査方針や手法等を提案した。

2. 情報提供事業

2.1 日本およびアジアにおける気候変動適応および防災・減災に対する湿地の役割とその活用

- 湿地に関する伝統的な Eco-DRR について検討、具体例を調査し、日本およびアジアにおける情報交換、事例共有が行われることで、具体的な湿地の持つ防災・減災の機能が認識され、今後の湿地の保全と防災力の向上への寄与を目指す。
- 日本とアジア各国の専門家による現地調査、ワークショップを実施し、各国の事例を収集した。
- 気候変動適応および防災・減災、湿地等に関する国際的な動向について情報収集を行った。

2.2 アジア水鳥センサス (AWC) へのデータ提供

- 2019年12月11日に開催された東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ (EAAFP) 国内連絡会に参加し、情報収集を行った。

3. 支援事業

3.1 平成31年度ラムサール条約登録湿地関係市町村会議ホームページ運営管理業務

- 日本のラムサール条約登録湿地の概要及び最新情報を掲載している「ラムサール条約登録湿地関係市町村会議ホームページ」の全面リニューアルを行い、2020年3月25日に公開した。
<http://www.ramsarsite.jp/>
- 当該サイトへの移行や更新情報の有無を関係市町村に確認し、定期更新を行った。

3.2 ラムサール条約登録湿地関係市町村会議第11回学習・交流事業企画運営業務

- 「湿地を生かした地域づくりとそのしかけ」をテーマに、2019年11月20日に宮城県大崎市で学習・交流会を開催した。基調講演や事例紹介、ディスカッションの内容と、ポスター交流会の様子をまとめた報告書を作成し、ウェブページで公開した。
- 令和2年度から会長市が大崎市から栃木市に代わるため、引継ぎを兼ねた打合せを行い、10月に学習・交流会を開催する方向で調整を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度は開催を見送ることとなった。

3.3 平成31年度葛西海浜公園PRイベント企画運営委託

- 2018年に葛西海浜公園がラムサール条約湿地に登録されたことを契機として、国内の他の登録湿地を有する自治体と連携し、湿地が有する豊かな自然環境や人々との関わりについて広く周知するためのPRイベントの企画・運営を行った。
- 令和元年9月12・13日に、新宿駅西口広場イベントコーナーで「全国ラムサール条約湿地PRイベント」を開催した。
- 令和元年10月20日に、都民ホールで「葛西海浜公園ラムサール条約登録1周年記念シンポジウム」を開催した。
- 令和2年2月22～24日に、葛西海浜公園や国立オリンピック記念青少年総合センター等で「KODOMO ラムサール in 葛西海浜公園」を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で延期となった。

3.4 令和元年度ラムサール条約関連図書の翻訳業務

- ラムサール条約事務局が2018年9月に公表した「Global Wetland Outlook Executive Summary（世界湿地概況 概要版）」の日本語版の翻訳、編集、電子データの作成、印刷を行った。

4. 普及啓発事業

4.1 国内における湿地管理者の育成及びCEPAの取組みの共有

- ラムサール条約登録湿地を有する自治体の職員及び湿地センターの職員（湿地管理者）の人材育成を目的とした研修会の開催に向け、荒尾市を訪問し、関係者と打合せを行った。ただし、研修会の開催準備を進めたものの、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を延期した。
- 各地のCEPAの取組みに関する情報収集のため、屋久島永田浜、荒尾干潟、琵琶湖、大沼などを訪れた。また、各地の湿地管理者に対し、活動にあたっての課題等をヒアリングした。

4.2 令和元年度ラムサール条約湿地ワイズユース推進のための普及啓発・調査業務

- ラムサール条約湿地情報票（RIS）の更新のため6か所のラムサール条約登録湿地のRISについて、情報収集、加筆、修正等を行った。
- ラムサール条約事務局が発行した「Scaling up wetland conservation, wise use and restoration to achieve the Sustainable Development Goals（湿地とSDGs）」の日本語版の翻訳、編集、電子データの作成、印刷を行った。
- 「日本のラムサール条約湿地（日本語版）」の印刷を行った。

4.3 令和元年度「世界湿地の日」における普及啓発推進業務

- 2020年2月2日の「世界湿地の日」のテーマは「湿地と生物多様性」であった。ラムサール条約事務局から提供されたポスターおよびパワーポイントの日本語版を作成し、関係者等に提供した。

4.4 2020年「世界湿地の日」シンポジウム開催

- 国連大学サステナビリティ高等研究所、地球環境パートナーシッププラザとともに「湿地と生物多様性」をテーマに世界湿地の日記念シンポジウムを開催した。2020年2月1日に国連大学アネックススペースで開催し、約100名が参加した。
- 当団体の成果として、生物多様性モニタリングに関する話題を提供した。